

はじめに

一昨年来の「新型コロナウイルス感染症」は3年目に入り、「第6波」が完全に収束することなく「第7波」による感染拡大が進行しつつあります。当院では、新型コロナウイルス感染症対策に取り組みつつ、断らない救急を原則とする急性期医療の受入体制を整備し、公立病院としての役割を果たしてきたところです。

診療面においては、昨年度に引き続き発熱外来を設置し、新型コロナウイルス感染症に関し陽性患者や疑い患者を積極的に受け入れてきました。入院においても、専用病棟を最大2病棟に拡張し、大阪府の要請に応じて最大限の受入を行ってきました。また、ワクチン接種においても、当院職員のみならず市内医療従事者の接種を実施し、地域医療にも貢献してきたところです。

経営面においては、新型コロナウイルス感染症の影響は令和2年度より大きかったものの、可能な限り通常診療を行うことにより、入院、外来ともに患者数が増加し、それに伴い医業収益も増加しました。それに加えて、国・府の新型コロナウイルス感染症対策等に係る補助金や市からの繰入金により、令和3年度純利益は5億5千万円の黒字となりました。

また、新病院の移転建て替えに向けて、新市立病院整備審議会の議論も活発化し、新病院が担うべき役割や機能等についてまもなく市長に答申が出されるところです。

今後においては、令和3年8月に策定いたしました「第四次箕面市立病院改革プラン策定に向けた経営改善策」に基づく取り組みを着実に進めることで、経営改善を図り、地域に必要とされる医療機能の確保と質の高い医療の提供を進めてまいります。

令和4年（2022年）8月

箕面市病院事業管理者 大橋 修二
箕面市立病院長 岡 義雄